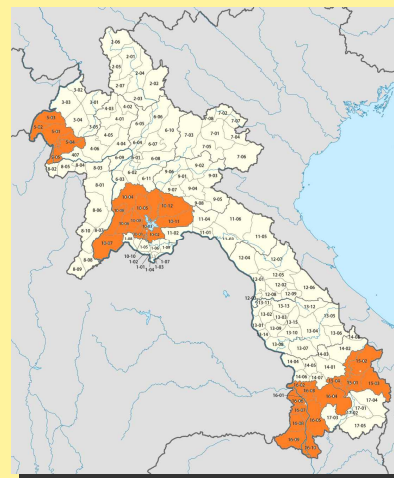


草の根技術協力事業

ラオスにおける読書推進運動の 自立的運営の定着化

実施期間	2010年3月15日～2012年1月31日
対象地域	ヴィエンチャン県、チャムパサック県、セコン県、ボーケオ県
ターゲットグループ	対象地域の小学校30校の児童・教員・地域住民、及び対象地域の教育指導官
上位目標	対象地域で読書をする人口が増加する。
プロジェクト目標	対象校で、読書推進活動が継続的に実施される体制が整っている

対象地域地図



ボーケオ県（5校）
ヴィエンチャン県（11校）
セコン県（4校）
チャムパサック県（10校）

1郡1校、
各郡にモデル校を。

これまでの活動

2005年～2008年

草の根技術協力事業 「ラオスにおける読書推進運動の自立的運営のための拠点構築事業」を実施

対象校：461校

ボーケオ県、ヴィエンチャン県、
セコン県、チャンパサック県

実施内容

- 図書セット配布
- 教員、教育指導官のトレーニング
- 図書の出版
- 読書推進センター設置

背景、活動内容

背景：

先行事業では、数値的には目標を達成しているが、実施内容は量的な部分でのカバーであり、質的には以下のような課題が残った

- ・ 学校での図書利用の時間が少ない
- ・ 図書の内容を読解できていない子どもが多い
- ・ 読書推進センターの活動が定着していない

活動内容：

- ① 教育指導官（ニテート）に読書推進活動の指導
- ② 学校訪問（教育指導官と共に）
 - ・ 新しい図書の活用法、テクニックの指導
 - ・ 各校の問題点を抽出し、解決法を話し合う
 - ・ 丁寧にフォロー、励まし、応用、実践
- ③ 3～4か月後に活動の評価訪問
- ④ 読書推進センターの設置、新本との交換
- ⑤ 評価で不十分だった学校のフォロー
 - ・ ベスト1、ワースト1の学校を訪問（校長、教育指導官も同行）



事業開始時の図書箱・図書コーナーの状態

- 図書開放をしている学校：20校
- 図書の貸し出しをしている学校：17校
- 課題
 - 学校での図書利用の時間が少ない
 - 図書の内容を読解できていない子どもが多い
 - 研修を受けた先生が異動し、どう活動したら良いかわからない。貸出の方法もわからない。
 - 本がすぐに紛失するので開放、貸出しをしない
 - 図書室専用の部屋がない。
 - オーナーシップの欠如（〇〇団体からもらった本なので、〇〇団体の指示通りにやらなければならない）
 - 読書推進センターの活動が定着していない



学校の変化

プロジェクト目標：対象校で、読書推進活動が継続的に実施される体制が整っている。

- <定期的な活動、毎週の活動>
30校中26校で、毎週継続して読書推進活動をしている。
- <図書にアクセスできる時間>
26校で、毎週150分以上、図書利用時間を設けている。
(午前午後の休み時間、「アクティビティ」の時間、授業科目「ラオス語」「私たちの身の回り」で使用。)
- <利用者数>
 - ・ 図書室・図書コーナー利用者数事業開始前から3.3倍に。
 - ・ 図書を借りた人数、2倍に増加。
 - ・ 開始時に図書利用者ゼロだった学校でも、図書室利用者が約1,940名、図書を借りる生徒が1,450名となる学校も。
(チャンパサック県サナソンブン郡)

成果1：郡の教育指導官が学校の読書推進活動をサポートできるようになる

- 教育指導官は、対象校の90% (27校) の活動状況を把握できている
 - ・ ボーケオ県：5校 (5校中)
 - ・ ヴィエンチャン県：9校 (11校中)
 - ・ セコン県：4校 (4校中)
 - ・ チャンパサック県：9校 (10校中)
- 18人 (全25人) の教育指導官が、読書活動活性化のための活動を行っている (情報収集、学校巡回しアドバイス、本の交換、研修の実施)
 - ・ ボーケオ県：3人 (5人中)
 - ・ ヴィエンチャン県：5人 (7人中)
 - ・ セコン県：2人 (3人中)
 - ・ チャンパサック県：8人 (10人中)



成果2：学校での図書活用が促進される体制が整っている

- 図書活用率 (図書室・コーナーの利用者、本を借りた人数) が、30校中21校 (70%) で増加
- サンプル校として抽出した配布図書の活用状況は、70%を上回っていた。(貸出カードの半面が一杯になっている、もしくは2011年9月以降貸出記録のあった図書を活用されているとみなした)
- 対象校の73% (30校中22校) がチームで図書管理。
 - ・ ボーケオ県：2校 (5校中)
 - ・ ヴィエンチャン県：9校 (11校中)
 - ・ セコン県：4校 (4校中)
 - ・ チャンパサック県：7校 (10校中)

成果3：教員が学校の授業で図書を活用している

- 授業で図書を活用している教員が半数以上となっている学校は対象校の53%（30校中16校）であった。
 - ボーケオ県：2校
 - ヴィエンチャン県：5校
 - セコン県：4校
 - チャンパサック県：5校
- 教員数が多い学校で、校長のリーダーシップに欠ける学校では、校内の一部の教員にしかノウハウを伝えられていない学校もあった。
- 校内の半数には達していないものの、教員が授業で図書を活用している教員が1名以上いる学校は対象校の80%（30校中24校）に達している。

セコン県 ターテンタイ小学校

図書室を新たに設置し、アクティビティ満載に

事業開始時



職員室に設置していた図書コーナー

事業実施後



空教室を図書室に。



読書の場所がなく、本を選ぶのも大変



図書室でゆっくりと本を読めるように

セコン県 ターテンタイ小学

事業開始時



スタッフがアクティビティのやり方を指導

事業実施後



自分達でアクティビティを実施できるように。紙芝居を劇にして披露




ボーケオ県 ホームスック小学校

子どもの関心
校長先生のリーダーシップ
教員のチームワーク







ボーケオ県 ホムスック小学校
親の関心



最初の会合にはたくさんの村の人が出席。教室に全員が入れないほど。

ボーケオ県 ホムスック小学校



図書を借りるために手提げ袋を持って学校に来る村人

ボーケオ県 ホムスック小学校
図書室が確保できないなら、図書を各教室へ

事業開始時



職員室の一角に設置していた
図書コーナー

事業実施後



本をカゴに入れて、各教室に
図書コーナーを設置

チャンパサック県 ノンケン小学校
毎月センター校から図書を借り、生徒全員に貸出し




教育指導官、センター校、分校の先生。
分校の先生は3人。全員が図書担当。



鍵がかからないので、毎日近所の
家から運んでくる。

チャンパサック県 ノンケン小学校
新本が入手できるから本の紛失の心配無用




優良校として表彰

貸出記録で埋まった貸出カード
(読書推進センターで新本と交換してもらおう)

優良校の共通項

- 校長の読書活動への理解、リーダーシップが重要。優良校6校のすべてで校長がリーダーシップを発揮し、活動の要となっていた（適任を任命、月や学期毎の学校計画に読書活動を含める、校内の教員間での分担など）
- 校内の多く、または全教員が読書推進活動の担い手になっている（優良校の内3校は、校内の全教員が読書活動の担い手）
→担当者をマジョリティにする
- 担当が各教室に図書セットを持って行き、読書活動を実施。



成果4：読書推進センターの設置活動

- ヴィエンチャン県の読書推進センターの継続、強化
- ボークオ県パーウドム郡、チャンパサック県ポントン郡に新たに設置
- チャンパサック県コーン郡に設置準備
- センターの権限、機能の増強
新本との交換のみでない、読書推進センターの権限拡大
 - フルカード、傷んだ本と新本の交換
 - 読書推進に関わる情報の集積
 - 新しく建てられた学校に本を提供
 - 図書室、図書が洪水や火事などの被害に遭った場合に図書セットを提供
 - 表彰などの目的で生徒や学校に図書を提供することができる

読書推進センターの活動状況

読書推進センター	学校数	貸出しカード枚数	交換した図書の冊数	交換した文具類
ヴィエンチャン県	3	228	47	15
ボークオ県 パーウドム郡	1	45	15	0
チャンパサック県 ポントン郡	7	758	202	20
チャンパサック県 コーン郡	2012年8月に設置予定			
当会ヴィエンチャン 事務所	13	678	141	27

※ヴィエンチャン県では、2ヶ所に図書セットの提供の実施

読書推進センター チャンパサック県ポントン

郡内の学校対象に研修も実施



読書推進センター ボーケオ県パーウドム郡

「読書推進に関わる人、情報、知恵の集まる場所」



読書推進活動のローカライゼーション

- 各校に適した方法で実践
一つのフォーマットで全てに実施するのではなく、多様な状況に対応。
- 各校で携わる関係者を増やす。
出る杭は打たれる。少数で異なることを継続するのは大変。全員を関係者にする。
- 地域の教育指導官がトレーナー
内にも外にも仲間を作る
- 郡に読書推進センターの設置



子どもは未来をつかみたい